



福井県家畜保健衛生所

〒918-8226 福井市大畑町 69-10-1

Tel: 0776-54-5104 Fax: 0776-54-5966

Email : katikuho@pref.fukui.lg.jp

↑ 家畜保健衛生所ホームページ <https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kaho/index.html>

定期報告の提出をお願いします

家畜伝染病予防法第 12 条の4に基づき、家畜の所有者は毎年2月1日時点の家畜の飼養状況及び飼養衛生管理基準の遵守状況について、愛玩等の飼養目的に関わらず、県へ報告することが義務付けられています。この報告を「定期報告」と呼んでいます。

対象となる家畜は牛、水牛、鹿、めん羊、山羊、馬、豚（ミニブタ、マイクロブタ等を含む）、いのしし、鶏（ウコッケイ、チャボ等を含む）、うずら、あひる（アイガモを含む）、きじ、だちょう、ほろほろ鳥、七面鳥です。飼養頭羽数が1頭羽から定期報告書の提出が必要です。

この家保だよりと共に定期報告の様式を同封していますので、令和 7 年 3 月 31 日までに提出をお願いします。家畜保健衛生所へメール、FAX、郵送等で提出してください。

定期報告の様式は家畜保健衛生所のホームページからダウンロードできます。また、今年よりインターネット上の農林水産省共通申請サービス（eMAFF）で、定期報告の電子申請が可能になっています。電子申請は任意ではありますが、積極的にご活用ください。

手数料の納付方法について

令和 7 年 4 月から、福井県証紙が使用できなくなることに伴い、手数料納付の方法が変わります。以下の方法でお支払いいただけます。

手数料納付システム

おすすめポイント 窓口に来なくても支払いが完了！

1 福井県家畜保健衛生所のホームページにアクセスします

・ [家畜保健衛生所 | 福井県ホームページ](#)

トピックス

※福井県嶺南家畜保健衛生センターは令和2年4月1日より

- ・ 手数料が一部改正されました（2024年4月1日）
- ・ BSEの検査対象が変更になりました
- ・ 手数料納付がwebで可能になりました。詳しくは[こちら](#)
- ・ 手数料を一部改訂しました
- ・ 家保だより第51号を発行しました

トピックス

「手数料納付が web で可能になりました。詳しくは [こちら](#)」
をクリックまたはタップ

- 2 申請する手数料を選びます
- 3 案内に従い、「申請者名、電話番号、メールアドレス」を入力します
- 4 決済方法を選択します
「クレジットカード」または「コンビニエンスストア」から選びます

クレジットカード : カード番号、有効期限、セキュリティコードを入力して決済します
コンビニ払い : 支払い予定のコンビニ店舗を選択し、必要事項を入力します
店舗にてマルチコピー機等で受付番号、電話番号を入力し、
出てきた「申込券」を持ってレジなどで現金払います

- 5 12桁の申込番号を検査申込書に記入します
窓口に来られない場合は職員が代行記入しますので、お知らせください
- 6 入金完了メールまたは受領書(レシート)のコピーを家畜保健衛生所へ提出します
メールはそのまま転送、受領書は写真をメール送信またはFAXで送信

キャッシュレス端末

おすすめポイント 事前入力不要でスピーディ!

窓口や農場で、クレジットカード、電子マネー(交通系 IC、WAON、iD など)、コード決済(PayPay、auPAY、d払いなど)を利用して、キャッシュレス端末にてお支払いいただけます。

- ・農場では、職員が端末を所持している場合のみ可能です
- ・決済ブランドによって利用額の上限がありますので、事前にご確認ください
例)交通系 IC は上限 2 万円まで

上記の支払い方法は、すでに運用が始まっていますので、4月までにいずれかの方法をご検討ください。

貧血ってなに？血液検査について

血液は、血漿という水分に白血球や赤血球などの血球成分が浮かび、全身に循環することで様々なものを運びます。赤血球は特に酸素を届ける役割をしています。赤血球には鉄とタンパク質からなるヘモグロビンが含まれていて、これが酸素を運びます。赤血球が酸素を含むと鮮やかな赤色の動脈血、酸素がないと暗い赤色の静脈血になります。

赤血球の寿命

赤血球は骨髄で作られ、一定期間血液として全身を循環した後、脾臓で破壊・吸収されます。これが繰り返されて、常に新しい赤血球が作られています。赤血球の寿命は動物種で異なり、牛は約 5 か月、豚は約 3 か月、ネズミが約 1 か月です。

貧血とは？

貧血は、血液中のヘモグロビン濃度(HGB)が低下し、全身へ運ばれる酸素量が減少している状態です。ヘモグロビンは基本、赤血球の中にありますので、貧血には大きく分けて、赤血球内のヘモグロビン量が少ない場合(鉄欠乏貧血など)と血液中の赤血球数が減少している場合(出血、赤血球破壊の亢進など)があります。

貧血に関連する血液検査の項目について

当所ではこのたび、血球の多くの検査項目を短時間で測定可能な「自動測定器」を導入しました。この測定器により、血液中のヘモグロビン濃度など赤血球に関する詳細な検査が可能となり、貧血の原因をより細かく検討することができるようになりました。



主な測定項目は次のとおりです。

赤血球数 (RBC) … 血液中の赤血球の数

ヘマトクリット値 (HCT) … 血液中の赤血球が占める体積の割合

HGB … 血液中のヘモグロビンの濃度

平均赤血球容積 (MCV) … 赤血球 1 個の平均的な大きさ

平均赤血球ヘモグロビン量 (MCH) … 赤血球 1 個に含まれるヘモグロビンの量

平均赤血球ヘモグロビン濃度 (MCHC) … 赤血球 1 個に含まれるヘモグロビンの濃度

この他に、白血球数なども同時に測定することができます。

この測定器では、EDTAという薬剤で凝固防止を行った血液を使用します。貧血を疑うような検査依頼の場合は、採血時にご留意ください。この検査は血液生化学検査（手数料 1,720 円/1 検体）に含まれます。

具体的な貧血事例について

① 新生子牛の生理的な貧血

新生子牛は胎仔期に持っていたヘモグロビンが壊れやすく、出生後のヘモグロビン生成が間にあわない場合、血中ヘモグロビン濃度 (HGB) が低下しやすいと言われています。また、乳をのむことで血中の水分量が増え、結果的にヘモグロビン濃度が低下することがあります。また、急激な増体により、体形に見合った赤血球数の産生が追いつかないことがあります。貧血状態では、虚弱になり、発育遅延が起こることがありますので、血液の状況に応じて、適量の鉄剤の投与などを行います。投与量が多いと中毒を起こすことがあり、鉄剤と同時に使えない薬があるので、かかりつけ獣医師にご相談ください。

② 小型ピロプラズマ感染牛の慢性貧血

牛の小型ピロプラズマ (小型ピロ) は赤血球に寄生する原虫で、30 年ほど前には特にホルスタイン種の放牧牛で重度貧血や廃用など被害は甚大でしたが、原虫を媒介するマダニ類に対する殺ダニ剤が開発され、発症が大幅に減少しました。一方で、現在も、放牧牛を中心に小型ピロの感染が確認されています。小型ピロに一度感染すると終生持ち続けますが、平常時は無症状のことが多いです。しかし、小型ピロに感染していることで、酸化ストレス (暑熱、感染症、分娩など) により赤血球の寿命が短くなると言われています。赤血球を補充するため生成を頻繁に行い、必要な栄養 (葉酸、ビタミン B12) が不足することで、巨大な赤血球が出現してきます。そのため、検査では平均赤血球容積 (MCV) の値が高くなります。異常な赤血球は酸素を運ぶ能力も低いといわれます。死亡することは少ないですが、運動不耐性をはじめ、流産など繁殖障害につながることもあります。



高病原性鳥インフルエンザが続発！

高病原性鳥インフルエンザが国内で続発しており、令和7年1月21日時点で14道県40事例の発生が確認され、705万羽の家きんが殺処分されています。特に愛知県、千葉県などの養鶏場密集地域にて続発しています。

発生した農場の中には家畜保健衛生所への通報が遅れたために、近隣農場へ被害が拡大したことが疑われる事例があります。日頃から家きんの様子をよく観察し、元気のない様子が見られた時や死亡羽数の増加が確認された時には、迷わず家畜保健衛生所までご連絡ください。土日祝日も職員の携帯に転送されます。

農場全体の衛生状態を改善することが、家きんの健康を維持し、ウイルスから守ることにつながります。以下の項目を再点検し、飼養家きんを守りましょう。

- ・農場出入口、家きん舎周辺へ消石灰を散布
- ・農場や家きん舎専用の衣服、長靴への交換、手指の消毒
- ・防鳥ネットや金網などを再点検し、野鳥や野生動物の侵入を防止
- ・ネズミおよび害虫を駆除
- ・農場へ立ち入る車両の消毒

海外悪性伝染病の侵入に警戒

海外悪性伝染病とは、国内では発生していないが、海外から侵入すると畜産業に大きな被害を与える伝染病です。牛、めん山羊や豚に感染する口蹄疫、豚やいのししに感染するアフリカ豚熱などがあります。昨年、口蹄疫は中国、アジア諸国にて発生が報告されており、アフリカ豚熱は韓国の釜山の野生いのししで感染が確認されています。

- アフリカ豚熱は、2018年に中国に侵入後、**アジア各国に拡大**。
 - 口蹄疫は、**多くの国で継続的に発生**。
 - **いずれの病気も発生していないのは日本や台湾などごく限られた国・地域**※。
- ※ 日本や台湾では過去に口蹄疫が発生したことがあるが、その後浄化している。



2024年1月10日時点
出典：WHO、各国のウェブサイト等
注1：本資料における発生はWHOに報告されたもの
注2：初発年およびWHOに発生が報告された年
注3：口蹄疫発生国・地域は2021年以降で、括弧内は発生数

アフリカ豚熱の初発年

国・地域名	初発年
中国	2018年
香港、モンゴル、北朝鮮、韓国、ベトナム ラオス、カンボジア、フィリピン、ミャンマー インドネシア、東ティモール	2019年
インド	2020年
マレーシア、タイ、ブータン	2021年
ネパール	2022年
シンガポール、バングラデシュ	2023年

口蹄疫発生国・地域

国・地域名	発生年
中国(2)、ロシア(1)、ベトナム(28) カンボジア(41)、マレーシア(21)、タイ(47) インド(105)、ブータン(24)、ネパール(40) モンゴル(102)、スリランカ(36)	2021年
中国(1)、カンボジア(24)、タイ(108) マレーシア(28)、インドネシア(不明) インド(103)、ブータン(3)、ネパール(66) モンゴル(3)、スリランカ(57)	2022年
中国(4)、韓国(11)、ネパール(15) カンボジア(3)、マレーシア(7) インドネシア(不明)	2023年

注：検査体制や、まん延により報告が十分でない場合やワクチンにより発生が見えにくく汚染状況と発生数が一致しない場合がある。

出典：農林水産省

春節の時期に人や物に伴って日本へ侵入する可能性もあります。衛生対策を行っていないと、気が付かないうちに農場へウイルスの侵入を許してしまうことになりかねません。

まずは、農場へ立ち入る人を制限する、長靴や衣類の消毒、交換を実施する、手指消毒をおこなう、畜舎内の定期的な消毒の実施、農場へ野生動物やペットを侵入させないといった基本的な衛生対策を実施しましょう。

国内でランピースキン病が初めて発生

令和6年11月6日、福岡県の乳用牛農場で、国内では初めてとなるランピースキン病の発生が確認されました。本病はランピースキン病ウイルスによって引き起こされる牛や水牛の病気です。令和7年1月9日時点での累計発症頭数は227頭にのぼります。本誌発行時の発症頭数は0頭ですが、引き続き警戒が必要です。本病の死亡率は1～5%程度と低いですが、回復には数か月から数年かかり、乳量減少や細菌感染による経済的損失が生じます。本病はヒトに感染することはありません。

症状

全身の皮膚結節や水腫、食欲不振、発熱、鼻汁、泌乳量の低下など



農林水産省ランピースキン病について [lsd-51.pdf](#)

皮膚結節は頭部、頸部、乳房などの体毛のまばらな部位に確認されます。結節は壊死巣となって剥がれ落ち、そこから二次的な細菌感染を起こすことがあります。

ウイルスの感染経路と特徴

ランピースキン病ウイルスは皮膚の病変部や唾液、鼻汁、乳汁や精液などの体液に排泄され、それらに汚染された物や血液を介して伝播します。また、痂皮内で35日間、日光が当たらない場所では数か月生存することが報告されています。一方で、消毒用アルコール、次亜塩素酸ナトリウム、逆性石けん等の一般的な多くの消毒剤が有効です。

ワクチンについて

現在、国内には20万ドーズ分の海外製ワクチンが備蓄されていますが、発生状況等により、ワクチン接種が必要とされた場合に限定して接種されます。福岡県では発生農場の半径20km以内の166農場、約19,000頭でワクチンが接種されました。

農場での対策 ※農場で発生した場合には、乳の出荷、牛の移動の自粛を行うことになります

① 毎日の健康観察

早期発見、早期連絡がまん延防止に重要です。疑わしい牛を発見した場合は隔離し、家保へ連絡してください。牛の導入、出荷、移動時は健康観察を行ってください。

② 害虫の駆除

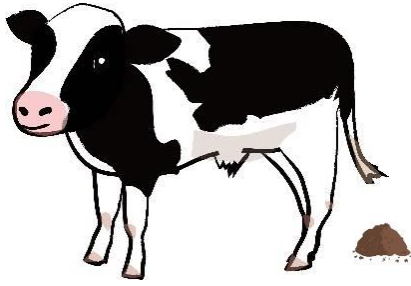
ヌカカ等の吸血昆虫（ベクター）は風に乗って遠くまでウイルスを伝播する可能性があります。平時より殺虫剤散布等の対策をお願いします。サシバエは夏に発生し始めます。その前にサシバエ対策を実施することで発生を抑えることができます。幼虫発生源の糞尿を速やかに取り除き、床全体を乾燥させる他、牛舎周辺の草刈りや特に多くとまっているホットスポットを中心に殺虫剤の散布も有効です。

③ 清掃、消毒

汚染された飼料、水、器具を介した感染リスクがあります。畜舎内の清掃や使用する器具消毒をお願いします。

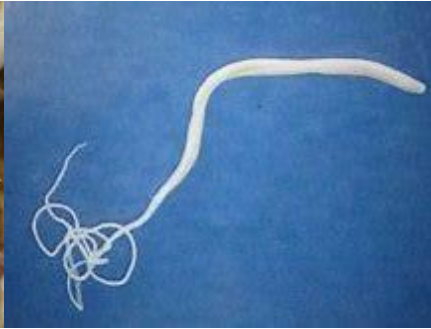
さらに詳しい情報は[ランピースキン病に関する情報：農林水産省](#)よりご確認ください。

牛の消化管内線虫症（鞭虫）の発生事例



今秋以降、県内 2 農場において、牛の消化管内線虫症のひとつである牛鞭虫症の発生が確認されました。

牛鞭虫は牛の大腸（盲腸や結腸）に寄生し、牛が摂取したエネルギーを吸い取ったり、腸壁に噛みついて血液や組織液を摂取したりします。そのため、腸粘膜の損傷や出血を生じ、重度寄生になると慢性の下痢、体重減少、発育不良、貧血、脱水、被毛粗剛などの症状がみられます。



←牛鞭虫
(細長い鞭状の虫体)



←牛鞭虫の虫卵
(ラグビーボール状)

↑牛鞭虫が寄生した盲腸（粘膜の肥厚、出血）

牛鞭虫の虫卵は糞便とともに排出され、ほかの牛への感染源となります。

対策として、敷料の交換や牛床の清掃・消毒、定期的な駆虫が重要です。

牛の消化管内線虫症は、一般的には顕著な臨床症状を示さない不顕性感染の場合が多いです。しかし、明らかな症状が見えなくとも、線虫が寄生することにより増体重や繁殖成績が低下することが報告されています。牛の生産性を最大限に引き出すためにも、糞便検査と駆虫を行いましょう。詳しい内容や対策、糞便検査の相談は家畜保健衛生所までご連絡ください。

県内における主な家畜伝染性疾病の発生状況

畜種	病名	発生戸数	発生頭羽数※
乳用牛	牛ロタウイルス病	1	8
	牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	1	1
	消化管内線虫症	1	2
肉用牛	牛伝染性リンパ腫	1	1
	牛ロタウイルス病	1	5
	牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	1	1
山羊	消化管内線虫症	1	1

(令和 6 年 10 月 1 日～令和 6 年 12 月 31 日)

※病性鑑定を実施した頭羽数

編集後記

家保だよりは年 3 回を目安に発行しています。家畜保健衛生所のホームページからもご覧いただけます。定期報告でメールアドレスを報告いただいている方には、メールにて発行をお知らせしますので、ホームページよりご覧ください(メールにホームページのリンクを添付します)。
メールではなく、郵送をご希望の方はその旨、お知らせください。